

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

香取市長 伊藤 友則

市町村名 (市町村コード)	香取市 (122360)
地域名 (地域内農業集落名)	八都東 (米野井・小見・川上・高野・竹之内・田部)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月20日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地域は、黒部川流域に広がる平坦な水田地帯で、営農は水稲作を主とする。
水田は、昭和初期の小区画(10a)の基盤整備がされているが、現在の大型機械に適合しないなど作業効率が悪く、経営面積拡大の妨げとなっているが、小見、米野井、竹之内の小区画等の農地については基盤整備の取組を始め、農業生産性の向上、農業構造の改革、農地利用の秩序化及び農地の適正な管理を目指している。
また、小見地区では平成29年に集落営農組織であるファームOmiの設立・法人化がされ、水稲、飼料用米、WCS、露地野菜、施設野菜による複合化に取り組み、経営の安定・継続を図っている。
米野井地区ではアグリ米野井が令和4年に法人化された。
地域内には大規模法人、大規模個人農家のほか、5ha規模の個人農家が多数いるが、高齢化、後継者不足により、農地の適正利用について懸念されるため、離農や経営規模を縮小する農家は農地中間管理機構へ農地を貸し付けることで、地域の担い手に対し農地を集積・集約化することに努める。

【地域の基礎的データ】

認定農業者:15人(うち、団体経営体:5経営体)

主な作物:水稲、露地野菜、施設野菜、マッシュルーム、養豚、花卉

(2) 地域における農業の将来の在り方

担い手へ農地の集積・集約化を進め、農作業の効率化を図り、農地が耕作放棄地化しないよう努める。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	471 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	471 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、法人、認定農業者、新規就農者及び規模拡大を考えている農業者を中心に農地を集積し、併せて集約化を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
段階的に集約化を進めるため、担い手の経営意向を把握し、農地中間管理機構を活用する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
小見・米野井・竹之内地区においては、令和4年度に県営黒部川左岸第三地区土地改良事業(区画整理)計画が決定された。他の地区では、農地耕作条件改善事業の活用を検討する。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
法人、認定農業者、新規就農者及び規模拡大を考えている農業者を中心に農地を利用していくとともに、多様な経営体にも配慮する。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
農業支援サービスを行う事業者の情報は地域内で共有し、必要とする経営体が活用できるようにする。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

①鳥獣被害防止対策	②有機・減農薬・減肥料	③スマート農業	④輸出	⑤果樹等
⑥燃料・資源作物等	⑦保全・管理等	⑧農業用施設	⑨その他	

【選択した上記の取組方針】